

董其昌
没後
380年とう き しょう
董其昌とその時代みんまつしんしょう れんめんしゅみ
—明末清初の連綿趣味—Dong Qichang and Artworks of the Late Ming and Early Qing Dynasty
—The 380th Memorial of Dong Qichang—

東京国立博物館と台東区立書道博物館との連携企画も、今年で14回目を迎えます。

今回は、董其昌(1555～1636)の没後380年にちなみ、

中国書画の流れを大きく変えた董其昌に焦点をあてながら、その前後に活躍した人々の書画を取り上げます。

展示総数は、重要文化財6件、重要美術品1件を含む、全128件!!

大阪市立美術館、泉屋博古館、京都国立博物館が所蔵する関西コレクション33件も特別公開!!

東京国立博物館で55件、台東区立書道博物館で73件を展示します。

東京国立博物館 東洋館8室 TOKYO NATIONAL MUSEUM 2017年1月2日(月・休)～2月26日(日)

開館時間 9:30～17:00 ※金・土曜日は～20:00(入館は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日(ただし1月9日は開館)、1月10日(火)

観覧料 一般 620円(520円) 大学生 410円(310円) ※()内は20名以上の団体料金

・高校生以下、および満18歳未満と満70歳以上の方は無料です。入館の際、年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください。
・障がい者とその介護者1名は無料です。入館の際に障がい者手帳などをご提示ください。・特別展「春日大社 千年の至宝」は別途観覧料が必要です。

住所 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 電話 03(5777)8600(ハローダイヤル)

ウェブサイト <http://www.tnm.jp/>交通 JR上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分 ※駐車場はありません

台東区立書道博物館 CALLIGRAPHY MUSEUM 2017年1月4日(水)～3月5日(日)

開館時間 9:30～16:30(入館は閉館の30分前まで)

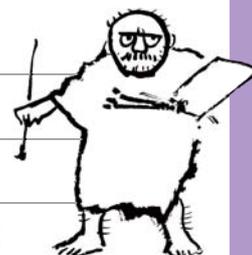
休館日 月曜日(ただし1月9日は開館)、1月10日(火)

観覧料 一般・大学生 500円(300円) 高・中・小学生 250円(150円) ※()内は20名以上の団体料金

・毎週土曜日は台東区内在住・在学の小・中学生とその引率者の観覧料が無料です。
・障がい者手帳または特定疾患医療受給者証をお持ちの方、及びその介護者は無料です。

主催 (公財)台東区芸術文化財団

住所 〒110-0003 東京都台東区根岸2-10-4 電話 03(3872)2645

ウェブサイト <http://www.taitocity.net/zaidan/shodou/>交通 JR鶯谷駅北口より徒歩5分
台東区循環バス「北めぐりん」②入谷区民館根岸分館(書道博物館)下車 徒歩3分 ※駐車場はありません

会期中、東京国立博物館で書道博物館の、書道博物館で東京国立博物館の観覧券の半券をご提示いただければ、それぞれ団体割引料金で観覧できます。(各種割引の併用はできません)



歴代の名品に対峙し、書画の歴史を変えた男

董其昌 Dong Qichang

— 董其昌プロフィール — Dong Qichang Profile

本名	とう きしやう 董其昌
あざな 字	げん さい 玄宰
号	し ぱく し おう こう こう こ じ 思白、思翁、香光居士
室号	が ぜん しつ げ こう どう げん しょう さい し げん どう ぼく ぜん げん ほう てい さい 画禅室、戲鴻堂、玄賞齋、四源堂、墨禅軒、宝鼎齋
おくりな 諡	ぶん びん 文敏
生年	明時代 嘉靖34年(1555)1月19日(新暦2月10日) 乙卯
卒年	明時代 崇禎9年(1636)11月11日(新暦12月8日) 丙子 82歳
官歴	万暦17年(1589) 35歳で進士(第二甲第一名で及第)
出生地	松江府上海県(現在の上海市)
民族	漢族
父親	とう かん じゆ 董漢儒
子供	そ わ そ じやう そ げん 董祖和、董祖常、董祖源
恩師	ばく じよ ちゆう でん いっ しゆん かん せい のう こ せい ぎ こう げん べん 莫如忠、田一儁、韓世能、顧正誼、項元汴
親友	ばく し りゆう ちん けい じゆ 莫是龍、陳繼儒、その他多数
尊敬する人	しやう じやう おう ぎ し ちやう きやく かい そ かん しん けい そ じやく こう てい げん べい ふつ 書…鍾繇、王羲之、張旭、懷素、顔真卿、蘇軾、黄庭堅、米芾
	おう い どう げん きや ねん こう こう ぼう けい さん こ ちん おう もう 画…王維、董源、巨然、黄公望、倪瓚、呉鎮、王蒙
ライバル	ちやう もう ふ ぶん ちやう めい 趙孟頫、文徵明
呼称	ほく けい なん どう けい どう 北邢南董(邢侗、董其昌) なん どう ほく べい べい ばん しやう 南董北米(董其昌、米万鍾) けい ちやう どう べい ちやう ずい と 邢張董米(邢侗、張瑞図、董其昌、米万鍾)

古人以謂神品也神

展覧会概要

明時代に文人として活躍した董其昌(1555~1636)は、高級官僚として官途を歩むかたわら、書画に妙腕を発揮しました。書ははじめ唐の顔真卿を学び、やがて王羲之ら魏晋の書に遡ります。さらに当時の形式化した書を否定して、平淡な書風を理想としながら、そこに躍動感あふれる連綿趣味を盛り込みました。画は元末の四大家から五代宋初の董源に遡り、宋や元の諸家の作風を広く涉獵して、文人画の伝統を継承しつつ、一方では急進的な描法によって奇想派の先駆けとなる作例も残しています。

董其昌は、書画の理論や鑑識においても、卓越した見識を持っていました。『画禅室随筆』は、董其昌の書画に対する深い理解と理念を示すものとして知られています。

明王朝から清王朝への移行は、単なる政権交代ではなく、漢民族が異民族である満州族に覇権を奪われた歴史上の一大事でもありました。董其昌によって提唱された書画の理念は、明末から清初にかけての激動の時代の書画にも濃厚に反映されました。連綿趣味は、当時の人々の鬱勃たる心情を吐露する恰好の場となったのです。清の康熙帝と乾隆帝が董其昌の書画を愛好したことで、その後300年に及ぶ清朝においても董其昌は大きな影響を与え続けます。董其昌ブームは日本にも及び、董其昌の理論と作風は江戸期の書画にも反映されました。

※会期中、展示替えがあります。

- 東京国立博物館(東博) 前期:1月2日(月・休)~1月29日(日) 後期:1月31日(火)~2月26日(日)
- 台東区立書道博物館(書博) 前期:1月4日(水)~1月29日(日) 後期:1月31日(火)~3月5日(日)

第1章 董其昌前夜

明時代の中期、15世紀の半ばから16世紀の後半にかけて、絹織物をはじめとする手工業が発達した蘇州は商業都市として隆盛し、豊かな経済力を背景に多くの文人たちが参集しました。当時、蘇州を中心として活躍した文人たちを、蘇州の古名にちなんで呉派と呼んでいます。

呉派を代表する文人には、沈周、文徵明、祝允明、唐寅、陳淳、王寵らを挙げることができます。なかでも齢九十の生涯を全うした文徵明の作風は、子の文彭や文嘉、甥の文伯仁らに継承され、一世を風靡しました。



偉大な伝統の継承者
ばってん、ちょこっと堅かたです

蘭竹図軸 文徵明筆

明時代・16世紀
東京国立博物館蔵(東博後期展示)



愛すべきのどかな光景

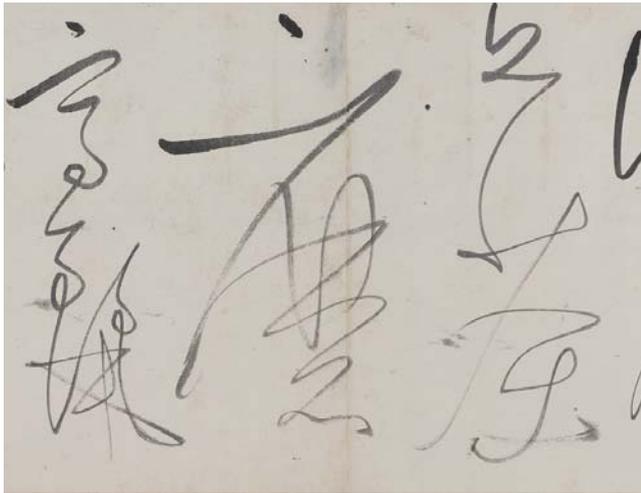
琵琶行図軸 文嘉筆

明時代・隆慶3年(1569)
大阪市立美術館蔵(書博後期展示)



第2章 董其昌の書画

呉派の書画は文徴明の没後、文氏一族や門弟に受け継がれましたが、次第に形骸化し、行き詰まりをみせるようになります。董其昌は歴代の書画の流れを見据えながら多くの名品を涉猟し、書においては巧妙を追い求め、円熟の後に到達する平淡を理想としました。画においては唐の王維おういに始まる文人画の流れを正統とする尚南しょうなん貶北へんぼく論を展開し、文人画の伝統を継承しつつ、奇想派きそうはの先駆けとなる作品も残しています。董其昌の活躍によって、江南における文人書画の主導権は蘇州から松江に移行し、董其昌の作風は後世にも大きな影響を与えました。



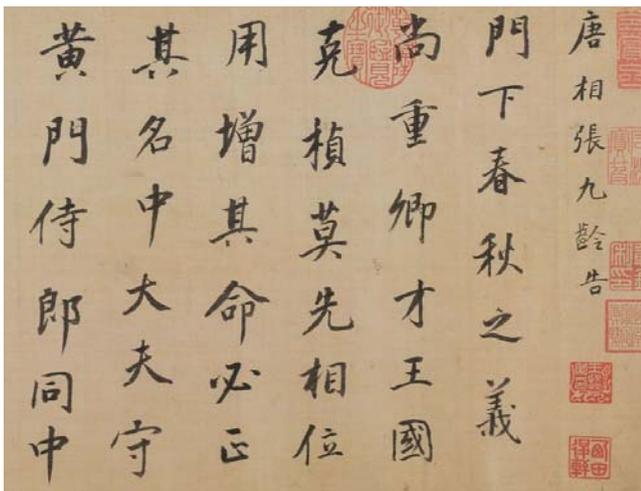
興に乗るにつれ、ほとぼしる情熱
行草書羅漢贊等書卷
董其昌筆

明時代・万曆31年(1603)
東京国立博物館蔵(東博全期間展示)



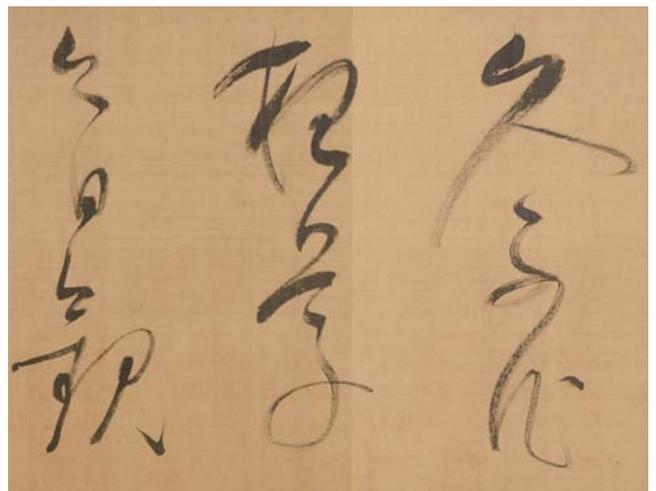
乾隆帝も鑑賞された倣趙孟頫作
溪山仙館函軸
董其昌筆

明時代・天啓3年(1623)
東京国立博物館蔵(東博前期展示)



『淳化閣帖』から古人の
筆意ば学ぶったい
臨徐浩書張九齡告身卷
董其昌筆

明時代・17世紀
東京国立博物館蔵(書博後期展示)



形骸化した書に狂草で喝ッ!
臨懷素自叙帖卷
董其昌筆

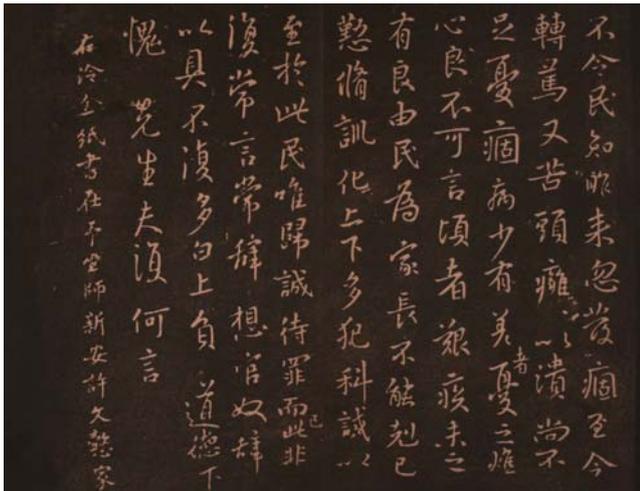
明時代・17世紀
東京国立博物館蔵(書博全期間展示)



第3章 董其昌の書画鑑識

董其昌は科擧の及第を目指して勉学に励んでいる時から、^{ぼくじよちゆう こせいぎ こうげんべん}莫如忠、顧正誼、項元汴といった名だたる収蔵家のもとで、歴代の書画に親しんできました。35歳で官途を歩み始めると、官界の収蔵家と親交し、さらに多くの書画を鑑賞しうる機会に恵まれます。

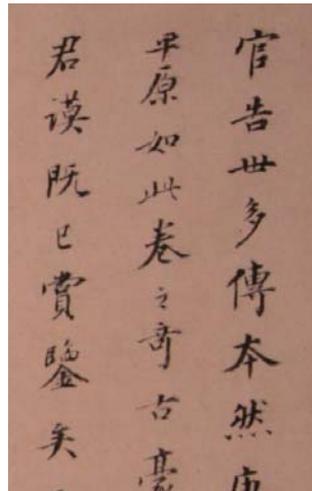
若い時分から数々の名品を鑑賞する環境にあった董其昌は、当時の文人グループの書画に対する認識を共有するとともに、自らも歴代の名品に真摯に対峙しました。現存する歴代の書画には、董其昌の題字や識語が書かれた作例が数多く伝わります。



私の豊かな見識を見よ！
襲撃事件のツケは早よう払わな！

戲鴻堂帖 董其昌編

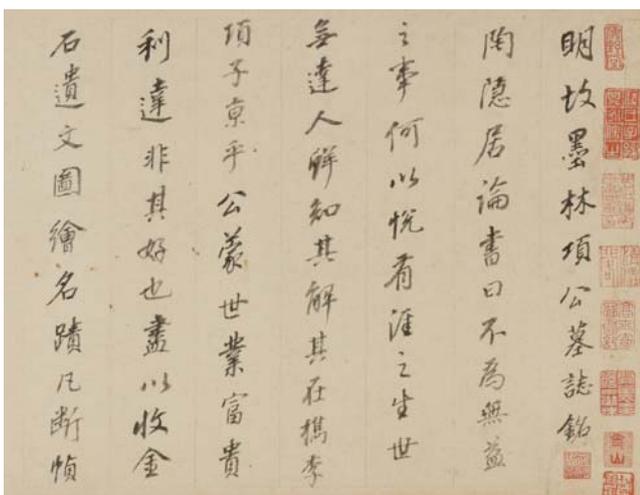
明時代・万曆31年(1603)
台東区立書道博物館蔵(書博全期間展示)



顧正誼先生のコレクションば
鑑賞させてもらったとです

顏真卿 自書告身帖跋 董其昌筆

明時代・16~17世紀
台東区立書道博物館蔵(書博全期間展示)



心から学恩に感謝!!!

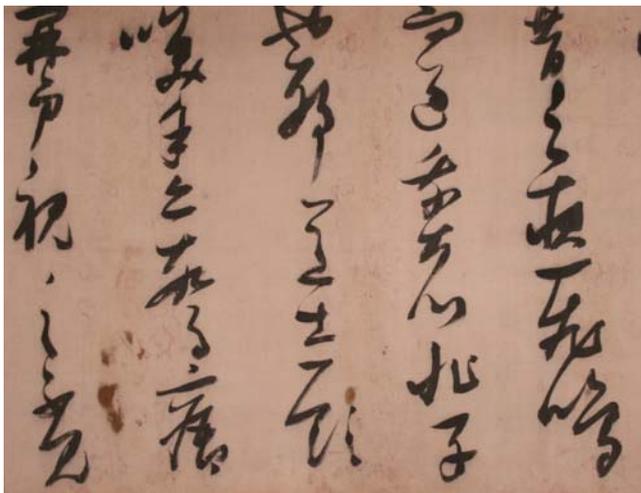
行書項墨林墓誌銘卷 董其昌筆

明時代・崇禎8年(1635)
東京国立博物館蔵(東博全期間展示)



第4章 明末清初の連綿趣味

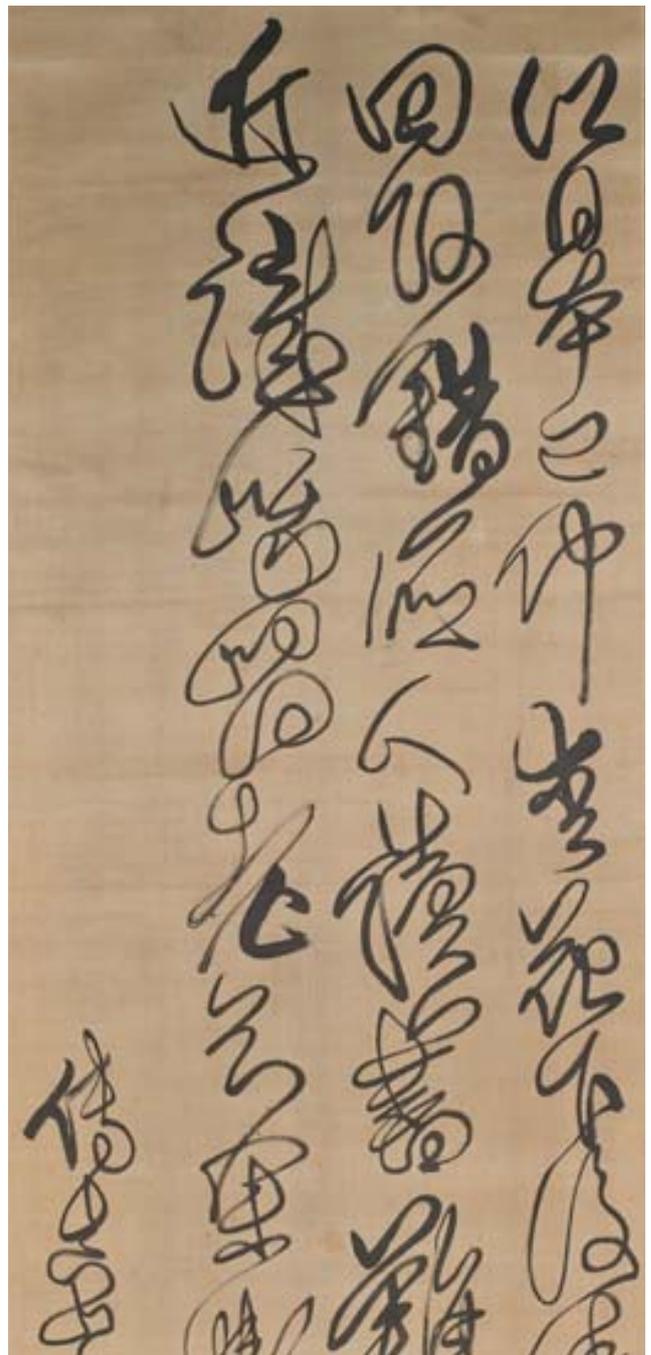
明末清初という動乱の時代、書では明の烈士や遺民らが、長条幅の形式に連綿草を用いた逸格のスタイルを展開させました。張瑞凶、黄道周、倪元璐、王鐸、傅山など、国家存亡に際した立場は異なるものの、諸家の書には鬱勃たる情感を吐露するかのような精神性が窺えます。緊迫した世情の反映とも解釈される連綿草による表現は、董其昌らの清新瀟洒なものと同線を画しますが、古典習熟の後に到達する天真爛漫な率意の書を理想に掲げた董其昌の理念は、明末清初の連綿趣味へと受け継がれていきます。



あなたの草書は、イカしとお～！
上手うなったね！

行書後赤壁賦卷 張瑞凶筆

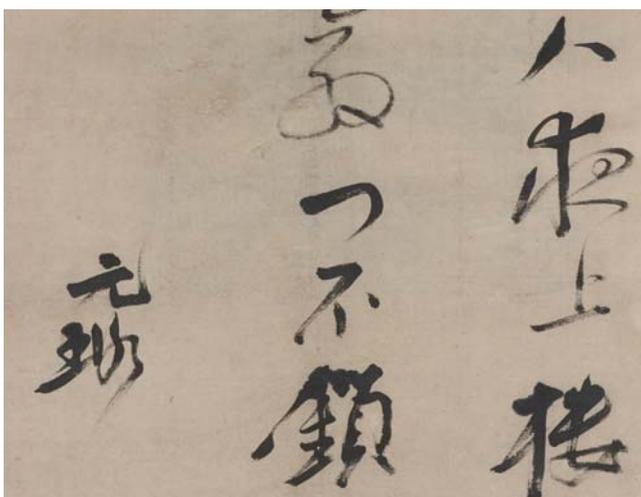
明時代・天啓3年(1623)
台東区立博物館蔵(書博全期間展示)



胸中の鬱勃を吐露！
書はテクニックじゃなかよ

草書五言律詩軸 傅山筆

清時代・17世紀
東京国立博物館蔵(東博全期間展示)



明王朝に殉じた烈士、
孤高の連綿表現

行書七言絶句軸 倪元璐筆

明時代・17世紀
東京国立博物館蔵(東博後期展示)



第5章 奇想派の系譜

董其昌は貪欲に古書画を収集し、尊敬すべき過去の文人書画家からの学習の重要性を繰り返し主張してきました。しかし同時に、単なる模倣を批判し、自分という存在を前面に出した「創造的」模倣の実践を提唱してもしました。「古画に倣った」と自ら記す山水画には、山石を不自然に変形させたり、これまでの絵画で常識的であった空間構成を敢えて崩したりするような表現が認められます。董其昌とほぼ同時代に活躍した呉彬や米万鍾の作品には、奇怪な形状の山塊が登場します。また、画面いっぱいにごめく山を描いた法若真、点描を重ねて金属的に輝く樹石を表した龔賢も非常に個性的です。彼らは、20世紀に入り、西洋の美術史学者によって「奇想派」と分類、紹介されたことで改めて注目されるようになりました。



伝統と革新が
共存する奇怪な構図ばい

寒林訪客図軸

米万鍾筆

明時代・16~17世紀
個人蔵(東博前期展示)



躍動感あふれるS字構図

溪山春動図軸

法若真筆

清時代・康熙12年(1673)
個人蔵(東博後期展示)



第6章 後世への影響

董其昌の提唱した南宗画の理論は、清初においても王時敏、王鑑、王翬、王原祁や、呉歴、惲寿平らの四王呉惲に受け継がれました。また明末清初に苦渋の選択を迫られた朱耷(八大山人)や石濤も大なり小なり董其昌の影響を受けています。江南の正統な文人画は、董其昌によってその命脈を保つこととなったのです。

清朝第4代の康熙帝、第6代の乾隆帝は董其昌の書を好み、董書は朝野を席捲します。

このブームは日本にも及び、董其昌の理論と作風は江戸期の書画にも大きな影響を与えました。



わが師の山水表現よ永遠なれ

做元四大家山水図軸(黄公望)

王原祁筆

清時代・17世紀

京都国立博物館蔵(東博前期展示)



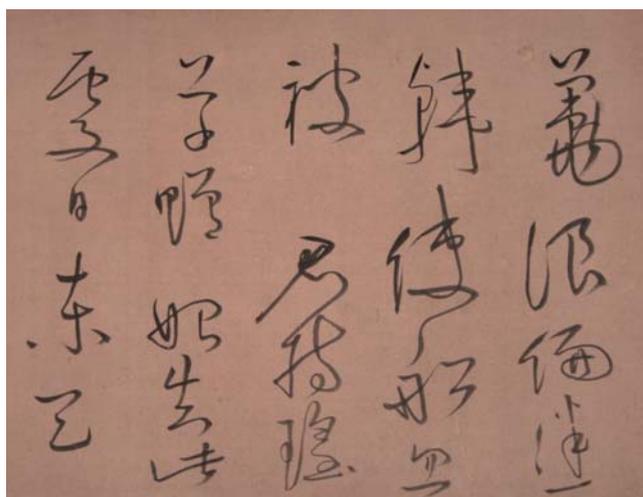
清々しい筆墨に苦渋を込めて

重要文化財 安晩帖

朱耷筆

清時代・康熙33年(1694)、康熙41年(1702)

京都・泉屋博古館蔵(東博前期展示)



狂草を唐様で書く中国通

草書詩巻

荻生徂徠筆

江戸時代・18世紀

台東区立書道博物館蔵(書博全期間展示)



関連イベント

東京国立博物館

連携講演会

「董其昌とその時代－明末清初の連綿趣味－」

東京国立博物館学芸研究部長 富田 淳

台東区立書道博物館主任研究員 鍋島稲子

日時:2017年2月4日(土)13:30~15:00

会場:東京国立博物館 平成館大講堂

定員:380名(当日先着順)

※聴講無料、ただし当日の観覧料が必要です。



ギャラリートーク

「董其昌とその時代－明末清初の連綿趣味－」

東京国立博物館学芸研究部長 富田 淳

日時:1月24日(火) 14:00~

会場:東京国立博物館 東洋館8室

※事前申込不要、聴講無料。ただし当日の観覧料が必要です。



台東区立書道博物館

ギャラリートーク

「董其昌とその時代－明末清初の連綿趣味－」

日時 1月24日(火)①11:00~

2月19日(日)②10:00~、③13:30~

※事前申込制で各回20名。往復はがきの「往信用裏面」に、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、年齢、希望日時を、「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記して下記までお申込下さい。1通のはがきで1名・1回の申込みとなります。聴講無料。ただし当日の観覧料が必要です。

申込先:〒110-0003台東区根岸2-10-4

台東区立書道博物館 ギャラリートーク係

締切:①1月13日(金)、②・③2月8日(水)必着

ワークショップ

「董其昌の書に挑戦!」

日時:2月19日(日) 開館時間中随時

会場:台東区立書道博物館 会議室

参加費:100円(材料費)



報道関係の方からの問い合わせ先

「董其昌とその時代」広報事務局

担当:富樫、大原

住所 〒101-0051 千代田区神田神保町2-13
神保町MFビル701

TEL 03-3237-3124

FAX 03-3237-3122

携帯 080-5443-1112

E-mail jtogashi@annex-inc.jp

